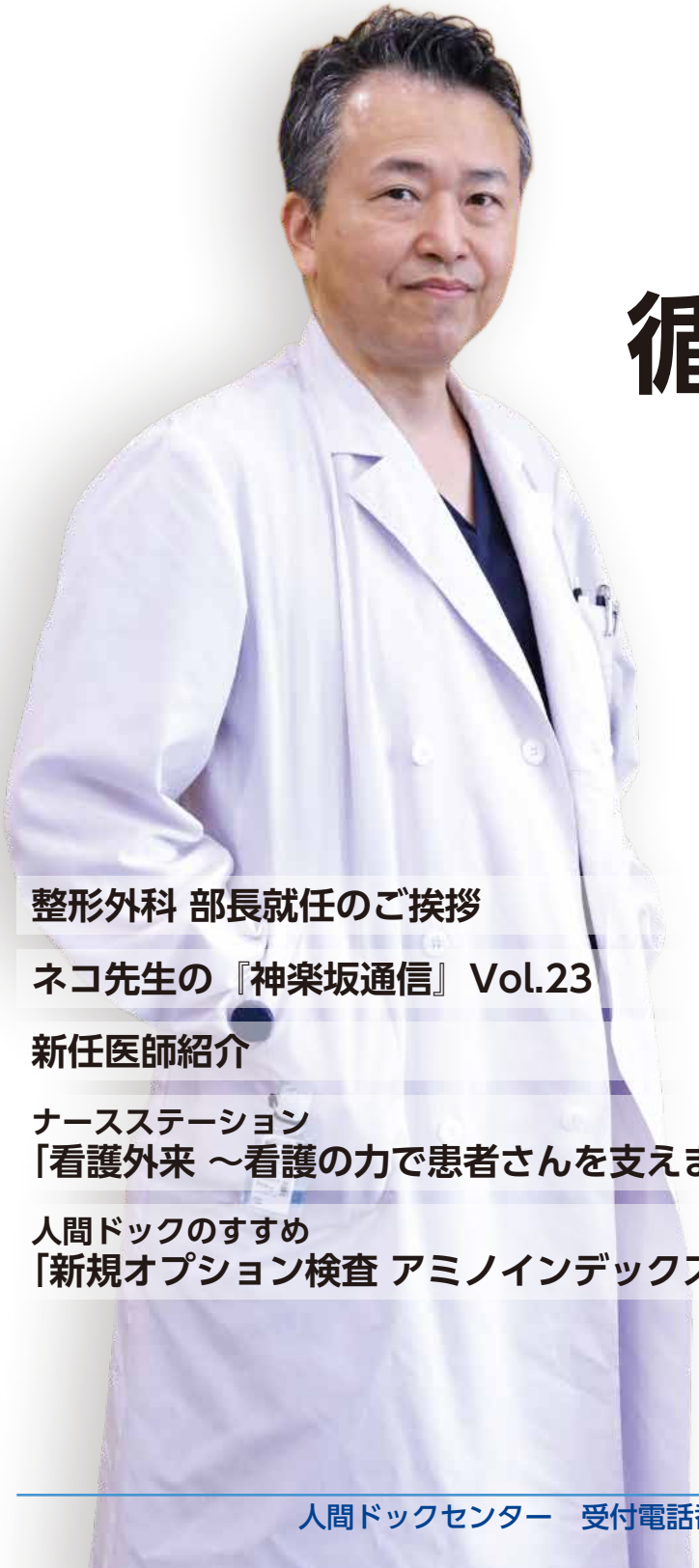
発行／東京逓信病院　2025 年 10 月 1 日

vol.155

東京逓信病院ニュース

けんこう家族



東京逓信病院
循環器内科特集
Doctor’s interview

循環器内科 部長
東谷 迪昭

整形外科 部長就任のご挨拶

ネコ先生の『神楽坂通信』Vol.23

新任医師紹介

ナースステーション
「看護外来 ～看護の力で患者さんを支えます～」

人間ドックのすすめ
「新規オプション検査 アミノインデックス開始」

〒102-8798
東京都千代田区富士見 2-14-23
TEL 03（5214）7111㈹
https://www.hospital.japanpost.jp/tokyo/

人間ドックセンター　受付電話番号 03-5214-7055、7167

Doctor's interview

東京逓信病院 循環器内科特集

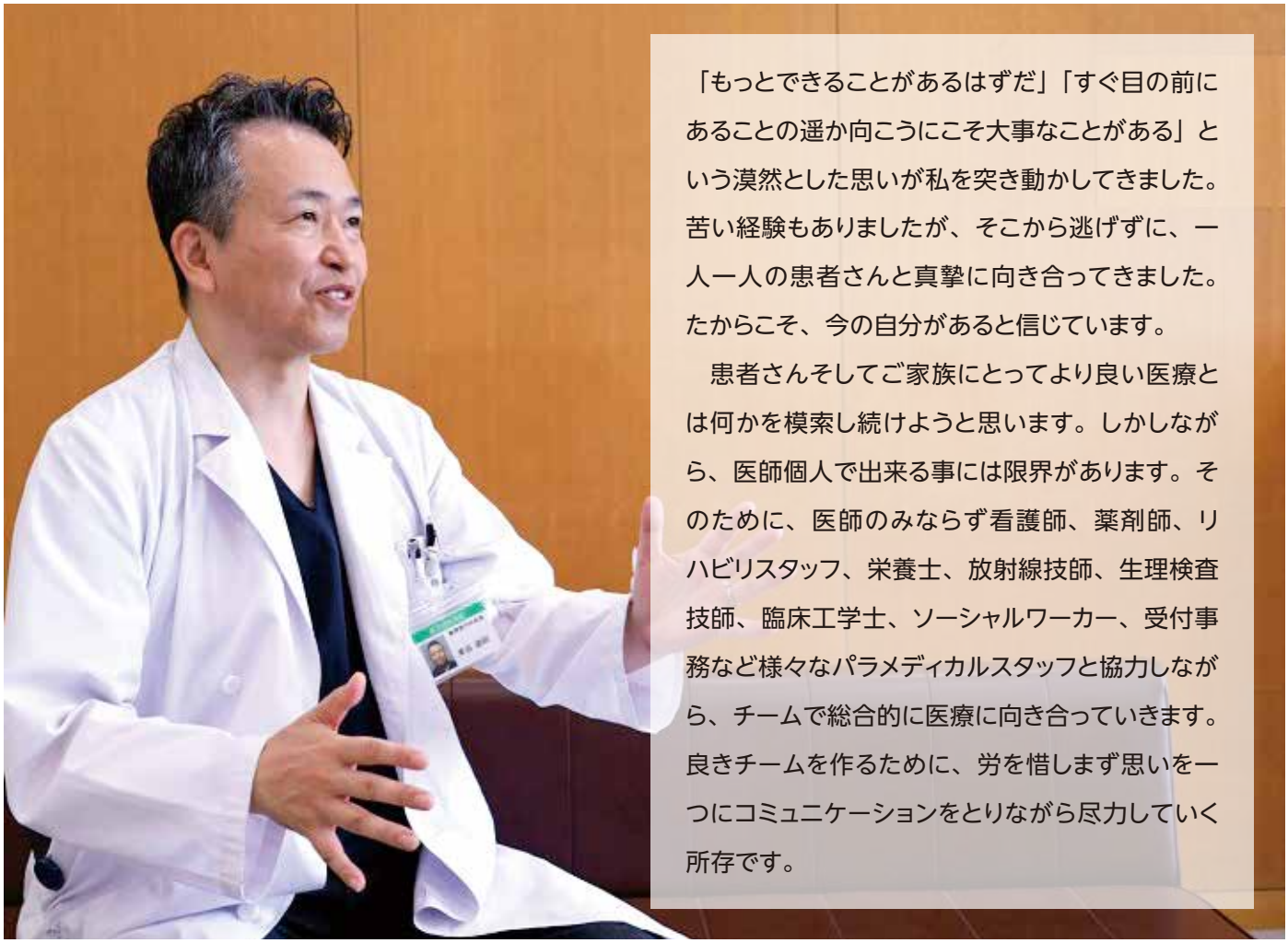
循環器内科 部長
東谷 迪昭

01 医師を目指されたきっかけと、循環器内科を専門とされた理由をお聞かせください。

現役で大学受験に失敗し浪人している時に、自らのことばかりを優先し生きてきた自分を振り返り、漠然と他人のために出来る事を仕事にしようと医学部を目指しました。

私が研修医の時代は、悪性腫瘍に対する治療方法も限られており予後不良な患者さんも少なからずおられました。その一方で、循環器疾患の患者さんは劇的に回復することも多く、内科の中でどの診療科を専攻するか迷っていた私は、最終的に循環器内科に決めました。

02 医師になり最も注力してきたことについてお聞かせください。また、今後の展望についてのお考えをお聞かせください。



「もっとできることがあるはずだ」「すぐ目の前にあることの遥か向こうにこそ大事なことがある」という漠然とした思いが私を突き動かしてきました。苦い経験もありましたが、そこから逃げずに、一人一人の患者さんと真摯に向き合ってきました。たからこそ、今の自分があると信じています。

患者さんそしてご家族にとってより良い医療とは何かを模索し続けようと思います。しかしながら、医師個人で出来る事には限界があります。そのために、医師のみならず看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、栄養士、放射線技師、生理検査技師、臨床工学士、ソーシャルワーカー、受付事務など様々なパラメディカルスタッフと協力しながら、チームで総合的に医療に向き合っていきます。良きチームを作るために、労を惜しまず思いを一つにコミュニケーションをとりながら尽力していく所存です。

03 東京逓信病院循環器内科の特徴

循環器領域には、虚血性心疾患、不整脈、血管疾患、弁膜症、先天性疾患そして心不全などの大きな枠組みがあります。個々の枠組みは互いに影響しあっており、単独の知識では個々の患者さんにあった治療行為を適切に提案することが出来ません。このため我々は、“狭心症・心筋梗塞センター”、“不整脈センター”の大きな2つのセンターと、“心不全専門外来”、“血管疾患専門外来”の2つの専門外来を設けて、バランスよく診療することを心掛けています。

また、次世代を担う若い循環器エキスパートの育成も重要な任務であると考えています。日々カンファレンスを行い全員で情報共有をしつつ、一致団結して診療に取り組んでいます。

04 最後に、けんこう家族をご覧の方へメッセージをお願いします。

東京逓信病院循環器内科は、患者さんそしてご家族に寄り添った医療を提供します。特に身体だけでなく精神面のサポートも意識し、多職種と連携しチームとして標準的治療を提供します。また医療行為の決定の際には、患者さんそしてご家族の意向も踏まえ、個々の患者さんに合った治療方針を提示します。何かお困りのことがありましたら、気軽に受診頂ければと思います。

新任のごあいさつ

関節の専門家として一人ひとりの患者さんに合わせた治療を目指しています

整形外科　部長
中山　修一

　処夏の候、皆様におかれましてはますますご清祥のことと存じます。

　2025年4月より、整形外科部長を拝命いたしました、中山修一と申します。

　1997年に東京大学の整形外科医局に入局し、2002年から関東労災病院スポーツ整形外科、東京大学医学部属病院、東京逓信病院、JR東京総合病院を経て、この度、11年ぶりに東京逓信病院に帰ってきました。

スポーツ整形外科医として

　バスケットボールを中心に、アンチ・ドーピング活動に取り組みながら、2006年からバスケットボールの日本代表チームのチームドクターとして帯同し、2014年からは日本オリンピック委員会に所属し、2016年のリオデジャネイロオリンピックなどでは日本代表選手団の本部ドクターとして帯同し、2021年の東京オリンピックではバスケットボール競技全4種目（5人制、3人制、男・女）の選手救護を統括しました。他にもアメリカンフットボール、フェンシング、日本中央競馬会での救護活動を通して、トップアスリートからスポーツ愛好家の健康管理、外傷・障害の予防と治療に現在でも携わっています。

膝関節外科医として

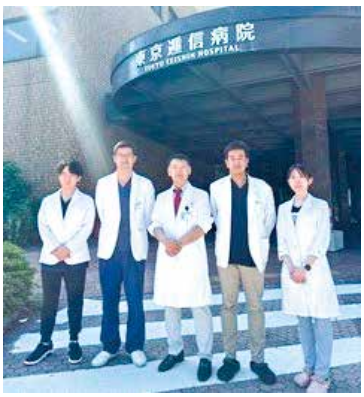
　私自身が膝靭帯損傷の手術患者であった経験（東京逓信で手術!）から、入局時から膝関節外科に興味を持って取り組んできました。小児特有の骨端症や半月板損傷、思春期の靭帯損傷やオーバーユース、壮年期の変形性膝関節症に至るグラデーションのなかで、詳細な診察と画像診断から、可能な限り正確な診断をするよう心がけています。その上で、治療の選択肢が多いことが私たち（当科）の強みだと思っています。保存療法を基本としますが、無効だった場合には、それぞれ数種類ある靭帯再建、半月板縫合、軟骨移植、オステオトミー、人工関節置換術から、患者さんの特性（スポーツ競技の特性・身体の特性・社会的な背景など）に合わせて患者さんと選ぶ、オーダーメイドの治療（プレシジョン メディスン）を目指しています。関節の内視鏡である関節鏡は、当院で開発され世界に広められたこともあり、よく使用します。これまでも私の手術の7割ほどは関節鏡を使用して行なってきました。

これからのこと

　当科には素晴らしい整形外科医たちが私のもとに集まってくれました。このメンバーとともに整形外科全般の治療においても、常に患者さんの一人ひとり特性に合わせた最適解を目指していこうと思います。

　どうぞよろしくお願い申し上げます。

　診察予約は、予約センター（03-5214-7381）、または病院の中央受付予約窓口へお問い合わせください。地域の先生がたとの連携を大切にしています。なるべく紹介状をお持ちください（紹介状がありませんと、初診では高額な選定療養費がかかってしまいます）。



ネコ先生の『神楽坂通信』Vol.23

院長補佐兼
消化器内科　部長
光井　洋

暑い夏がようやく終わり過ごしやすい季節となってきました。

先日、現代思想の入門書を読みましたので、今回は哲学と医療についてのお話をいたします。「構造主義」という言葉を聞かれたことがあるかと思います。レヴィ＝ストロースというフランスの思想家は、人間社会の分化的な仕組み(構造)を明らかにしようとしました。一方、その後に登場したデリダ（仏）らの思想は「ポスト構造主義」と呼ばれます。デリダは真と偽、善と悪、男と女などの二つの対立する概念（二項対立）に対し、その「プラス」と「マイナス」を決めつけることなく保留するやり方を唱えました。それらの対立的な枠組みは、ある価値観（考え方）により、一方が正しく、他方が間違いだと思われがちです。しかし、価値観が多様化した現在、それは絶対ではなく、ズレや変化があり、両者のグレーゾーンにも目をむける必要があるという考えです。簡単に言ってしまうと、常識を疑え、ということだと思います。

医療のテーマでこの二項対立を考えてみましょう。まず健康と病気、そして正常と異常について。常識的には、人間にとって健康が「プラス」で病気は「マイナス」と考えられます。病気を探し出す目的で、健康診断やがん検診が行われますが、ここで正常範囲から外れる数値があった場合、二次検査に進むことがあります。早期がんなど、早く治療することが利益になる場合も多いです。しかし、軽度の異常がある場合に過剰な検査をすることにより、受検者の心配が増したり、不利益が生じたりすることもあります。また、病気が見つかった場合に、治療による利益とそれによる副作用や費用負担を考えなければなりません。治療をするかどうかは、患者さんの年齢、元気さ、仕事との関係、希望、考え方などから決めることになります。異常だから検査する、病気だから治療する、とは一概に決められないことを申し上げています。

また、最近「発達障害」という言葉が広く使われるようになりました。脳機能の発達に障害があり、社会生活やコミュニケーション能力に難がある場合の呼称ですが、集中力や能力が通常より高い場合もあります。発達障害というレッテルを貼って疎外すること無く、適所を用意することでその方の能力を発揮することができるかも知れません。何が正常で何が異常かは決めつけられない例だと思います。

他には、医療の枠を超えて「LGBTQ」についての問題もあります。どのような性的指向を持つ人も法的には平等であるとされながら、実際には性的にマイノリティー（少数派）な方々に対し、残念ながら社会的な不利益は存在すると思います。性的な多数派と少数派という対立も「普通 / 異常」という分け方では語れない多様性です。我々医療者もこの問題については十分な意識と理解が必要です。

医療や社会における二項対立についていくつかの例をあげてみました。ポスト構造主義の考えを頭のすみに置くことで、社会常識にとらわれず、少しでも柔軟な考え方ができるのではないかと思った次第です。皆さまの生活のヒントになれば幸いです。

新 任 医 師 紹 介

整形外科　部長

中山　修一

整形外科部長を拝命いたしました中山修一と申します。この度11年ぶりに東京逓信病院に帰ってきました。常に患者さんの一人ひとり特性に合わせた最適解を目指していこうと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

循環器内科　不整脈センター長

福永　寛

4月より循環器内科に赴任いたしました。不整脈、特にカテーテルアブレーションを専門としています。健診の指摘や日常の些細な症状から不整脈が見つかることがあります、お気軽にご相談ください。

循環器内科　医長

間淵　圭

今年度より循環器内科に赴任しました間淵圭と申します。急性期から慢性期まで、親身になって医療を提供する所存です。よろしくお願いいたします。

リハビリテーション科　医長

田中　こなぎ

回復期リハビリ病棟での経験を生かし、その人らしい生活の再構築をご本人・ご家族といっしょにお手伝いしていきたいと考えています。

内科医師

佐々木　東吾

4月より内科医として赴任致しました。患者さんが安心して頂きながら治療を受けられように、日々努めて参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

内科医師

高見　浩

4月より内科専攻医として赴任いたしました高見と申します。患者さんが安心して治療を受けられるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

内科医師

藤田　昴秀

日々の診療を通じて、皆さまの健康を支える一助となれるよう精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

内分泌・代謝内科

河上　慶太郎

4月より内分泌・代謝内科に赴任しました河上と申します。患者さんの健康のため少しでもお力になれれば幸いです。よろしくお願いいたします。

神経内科

辻田　真比古

今年より着任いたしました神経内科の辻田です。神経疾患を中心に拝見します。よろしくお願い申し上げます。

神経内科

吉岡　玲央

4月より当院神経内科に1年ぶりに戻って参りました。患者さん一人ひとりの生活を見据えた診療を心がけてまいります。どうぞよろしくお願い致します。

消化器内科

齋藤　聡文

4月から消化器内科に赴任いたしました齋藤と申します。患者さんが安心して医療を受けられるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いします。

外科

加藤　有理沙

本年度4月より当院外科に赴任しました。患者さん一人ひとりの声に真摯に耳を傾け、温かい医療を提供します。よろしくお願いいたします。

脳神経外科

佐野　史弥

今年度から脳神経外科に赴任しました、佐野史弥と申します。患者さんやご家族の皆さんが安心して治療できるように努めます。どうぞよろしくお願いいたします。

脳神経外科

岩佐　和典

本年度から着任いたしました。患者さんに寄り添い、安心して診療を受けられるよう、丁寧な診療を心がけて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

整形外科

鹿毛　智文

今年度より整形外科に赴任しました、鹿毛智文と申します。患者さんの主訴を解決できるよう心がけて診療致します。お気軽にご相談ください。

整形外科

坂田　聡大

4月より整形外科に赴任いたしました。患者さんに安心と信頼の医療を提供できるよう努めて参ります。よろしくお願いいたします。

皮膚科

都築　美輝

今年度から赴任しました都築と申します。患者さんが適切な診療を安心して受けられるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

皮膚科

江波戸　一平

4月より赴任しました江波戸一平と申します。患者さんの症状を少しでも良くできるよう努力いたします。よろしくお願いいたします。

形成外科

片桐　勇貴

4月より形成外科に赴任しました片桐勇貴と申します。患者さんに寄り添った医療を心掛けてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

放射線科

高石　拓

主にCT/MRIの画像診断レポートの作成を行っています。赴任前は愛知県内の病院にて研鑽を積んでいました。裏方の仕事ですが、患者さんのお役に立てるよう頑張ります。

放射線科

陣内　遥

放射線治療部門では初診から治療開始まで迅速にご案内しております。馴染みのない患者さんにも丁寧にご説明いたしますので適応についてお悩みの方は主治医の先生を通してお気軽にご相談ください。

当院を退職しました

2025年3月31日退職

山田　友莉香（皮膚科）	石谷　直貴（神経内科）	後藤田　晃平（放射線科）
坂井　有里枝（消化器科）	藤原　昌（神経内科）	原　正武（外科）
弦間　有香（消化器科）	関　彩花（神経内科）	渡邉　裕介（皮膚科）
土井　秀悟（循環器内科）	井上　晶博（脳神経外科）	堀江　晃子（内科医師）
宮坂　英（呼吸器内科）	勝又　顕正（泌尿器科）	大江　美萌子（整形外科）

ナースステーション

看護外来～看護の力で患者さんを支えます～

看護師： 森、米竹、淺野、柳井、川野

内科外来では、2024年9月から看護外来を開始しました。看護外来では【慢性腎臓病透析予防外来】と【慢性心不全看護外来】を開いています。どちらも看護師が中心となって、患者さんと共に日々の暮らしの中でできることを考えていく外来です。

慢性腎臓病透析予防外来

腎臓の働きが少しずつ弱ってくる慢性腎臓病では、「透析をできるだけ先に延ばす・避ける」ことを目標に食事や生活の工夫、体調管理の方法などをお話しています。無理のない範囲で続けていけるよう、日々の生活に取り入れやすい方法を伝えています。

慢性心不全看護外来

心不全での再入院を防ぐために、体のサインに気づくポイントや、自宅でできるセルフケアなどをご紹介しています。不安な気持ちも遠慮なく話していただけるような外来を心がけています。

「ちょっと話してみたい」「聞いてみたいことがある」そんな小さなきっかけも大歓迎です。どうぞお気軽に、私たち看護師にご相談ください。

予約方法ついては主治医または看護師にお声かけください。

人間ドックのおすすめ

人間ドックセンター

1年に1回は健康チェック（電話03-5214-7055）

男性　基本検査

身体測定	肝・胆道系	眼科
呼吸器系	消化器系	耳鼻科
循環器系	血液系	
腎・尿路系	炎症・その他	
代謝系		

料金　45,100円

追加でオプション検査もございます。

女性　基本検査

身体測定	肝・胆道系	眼科
呼吸器系	消化器系	耳鼻科
循環器系	血液系	婦人科（子宮頸がん検診）
腎・尿路系	炎症・その他	外科系（乳房撮影＋触診）
代謝系		

料金　52,360円

追加でオプション検査もございます。

新規オプション検査「アミノインデックス」開始のお知らせ

本検査は、1回の採血（約5ml）で血液中のアミノ酸濃度のバランスを測定し、「複数のがんの可能性」や「生活習慣病のリスク」を評価できる検査です。

- 男性5種（胃・肺・大腸・膵・前立腺）、女性6種（胃・肺・大腸・膵・子宮・卵巣）の「現在がんであるリスク」を評価。（※がんの診断を行う検査ではありません）
- 「脳卒中・心筋梗塞を10年以内に発症するリスク」
- 「現在、認知機能が低下している可能性」

など、生活習慣病リスクも評価します。

検査結果は、それぞれのリスクを数値で報告し、健康づくりの参考となるアドバイスもお届けします。健康管理の一環として、ぜひご利用ください。

お申込み：人間ドックセンターまで

検査方法：採血

料金：25,300円（税込）

詳しくは、右記QRコードより当院ホームページをご覧ください。